

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501304		
法人名	株式会社オストジャパングループ		
事業所名	グループホームいきいき		
所在地	北海道札幌市白石区北郷9条3丁目3番1号		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0190501304-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHいきいきは看取りもおこなっている為、介護度の高い方も多く入居されております。介護度が高くてもその方のできることを少しでも長く継続して行えるように見極め支援し、その方が何を望んで、どのような生活を送りたいかを汲み取り希望する生活に近づけるよう日々努力をしております。お天気の良い日には近くの土手や公園への散歩や、自施設の花壇・畑の様子を見に行かれたり、数人でドライブや外食にも出かけます。また季節の行事を多く取り入れ、入居者様に四季を感じてもらいながら楽しんで頂けるよう取り組んでいます。平成24年から取り入れている認知症予防の公文学習療法では、参加されている入居者様はいつも楽しまれ笑顔も増えて良い効果が出ております。地域との交流では、読み聞かせのボランティアさんが月1回来訪してくれたり、近くの保育園さんとの交流があったり、小中学校の職場体験の受け入れをさせて頂いたりしております。町内会さんとは開所当初より、運営推進会議への参加のほか、夏祭りのボランティアとして協力して頂きテントを借りたり、町内会の防災訓練に参加したりと年々、良い関係が築けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ホーム理念」「ホーム目的」「ケア理念」と標榜しているものの、毎朝読み上げていた物が省略されつつある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント事では、町内会や隣接するケアハウスつかさ、近所の保育園と協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生などによる職業体験の取り組みや実習生・他施設の方の見学受け入れなどに取り組み実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	会議での内容を、ご家族の皆様へ報告し、意見等頂いた場合には、サービスに反映できるよう努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、不明な点等有る場合には、常に市担当者に連絡をし、指示を仰いでいる。避難訓練の計画を消防署に確認してもらったり、避難訓練後の運営推進会にも参加して頂き、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止に関するマニュアルを整備している。また、「あれは動きが制限されていない？」と都度、職員間で検討している。夜間以外、施錠はしていない。(鍵を掛けていなくても出にくいという、複雑な施錠方法ではない)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待防止マニュアルを渡し説明している。また、見直しや更新も怠りなく行っている。カンファレンスで虐待について話し合う機会を設け、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフが学べる機会がないので今後学べる場を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭や書面にて行っており、不安や疑問点があった場合は都度お答えし解決に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションの中で入居者様のご要望 意見をお伺いし運営に反映出来る様努めている。ご家族様は来訪時にお伺いしたり、運営推進会議での意見、要望を運営に反映出来る様努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は毎月のユニットカンファレンスで意見、提案を発信出来ている。また業務中に気が付いた事(意見 提案)を直ちにユニットリーダーに相談出来る環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回、人事考課を行い職員個々の状況を把握し昇給や向上心が持てるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修会資料を各ユニットに配布し参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実習生の受け入れを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が言いづらい事でも行動 言動から読み取れるよう、さらには本人から引き出せるようコミュニケーションを取り安心出来る関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、初回訪問の時に話し合う機会を設けている。ご家族様の要望 不安な事など聞き 納得頂けるまで説明を行いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のその時の身体的 精神的状態を観察する事と、本人 ご家族様からお話を伺い最適な支援 サービスを提供出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの生活スタイルを尊重し残存機能を活かせるよう モップ掛け、洗濯物たたみ、食器拭きなどの家事を手伝って頂いている。また、月々の行事 散歩などを通じ、スタッフと楽しみを共有出来る様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時 都度近況報告を行い、本人のご家族への希望(ご家族様とお出掛けしたい 一緒に過ごしたいなど)を出来る限り叶えられるようご家族様にその旨を伝え、出来る限りの協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人などが尋ねていたらしゃつた際は積極的に受け入れているが、こちらから関係が途切れないような支援は行っていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話しやすい雰囲気作りなどを行い、利用者様同士のコミュニケーションが取れる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族が時々来訪されたり、行事に参加頂けるよう機会を作っている。入居者様との交流もあり関係が継続できている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションなどの関わりから本人の希望 意向などを把握出来るよう努めている。また困難な場合は普段の本人の表情や反応などを見て本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様に、昔はどういった暮らしをして、どういう事が好きだったのかを聞いて記録におとしたり、グループホームに入居してからの様子を長く勤めているスタッフに聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居様ごとに1日の様子を記録におとしている。特変やいつもと様子が違う事がある時は、印をつけて変化に気付けるようにして、職員全員で情報を共有出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新に関わらず、入居者様の変化や気付いた事などを日々の申し送り時や、月のカンファレンスの際に話し合いをしている。ご家族様とも来訪時に様子について話し合い、その話し合いを元にケアプランを作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の他に、各入居者様ごとに気付きチェックシートを使用し、日頃の様子で気になることや変化を記入し、情報の共有をしている。記入した事は月のカンファレンス等で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務に追われ、全てに対応できているわけではないが、その時の状況に合わせて出来る限りの対応が出来るよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の子供御輿や保育園さんの来訪、読み聞かせのボランティアさんが、来訪してくれたり、避難訓練では消防や町内会の方が参加してくれ地域の方々力を借りた取り組みが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・入居者様の希望で入居前からの病院を受診される方もいる。往診医とご家族様が面談をしたり、スタッフが間に入って話をしたりする事によって信頼関係が築けている。他科受診の際には、ご家族・入居者様の希望を確認している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一で来ている訪看さんに、様子や気になる事を伝え診てもらったり、アドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書で情報提供し連携を図っている。情報が足りない場合には、電話連絡も行なっている。また、早期退院が出来るよう、見舞いの際様子を伺ったり受け入れ可能な状態を病院側に伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に一度お話をさせて頂き、その後は体調の変化が合った場合やご家族の要望があった時には都度説明し、必要に応じて往診医からもお話しをしてもらい、入居者様に合ったケアができる様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを各ユニットに備えているが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には行なっていない。職員の入れ替わりもあつた為、今後行なっていく必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。避難訓練では、夜間・日中・休日・地震・火災など様々な状況を想定して行っている。また、定期的に地域の方やご家族様にも参加して頂いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	育ってきた環境や暮らしてきた状況を把握し、個々に合わせた声掛けを心がけている。また、認知症の進行によっては記憶が幼少期や結婚前に戻っている方もいる為、その時に合わせた声掛けをするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする時には、どうしたいのかをまず聞くように心がけている。言葉が出にくい方もいる為、様子を見ながら何がしたいのかを考えたり、いくつかの選択肢を提示するなどし、本人の言葉が引き出せるように声掛けの仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	フロアで過ごしたり、居室で休んだり入居者様の希望にあわせて対応しているが、全介助の方の場合は、スタッフのペースになっていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝モーニングケアの際、整髪と洗面を行っている。自力で出来ない方は介助で行っている。また、入浴や外出の際には一緒に洋服を選んだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを使用しており、好みに合わせる事は難しいが食事のメニューを伝えたり食べやすいように食事形態を変えて提供している。又個々の誕生日やイベント時には好みの物を伺い提供している。食器拭き等のお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分チェック表と食事チェックを設けて無理の無いペースで水分量と時間を調節し提供している。状態に応じてトロミをつけて提供したり、食事量やバランスの悪い方はその都度声掛けし摂取して頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は毎食後口腔ケアをされているが、自力ですることが難しい方はご本人の力に応じて足りない部分は介助して対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況をチェック表を使用して把握しつつ失敗しないよう早めに声掛けをしたり、尿意の訴えがない方も日中・夜間(1日)の排泄の時間を調節してトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のカンファレンスで個々の排便状況を確認し、下剤の調整や乳製品を提供したり、排泄前に身体を動かしていただいたりしている。また、排泄時に腹部のマッサージを行うなどして排便出来るように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の希望に沿うよう入浴の声掛けをしたり、入浴の拒否があった場合は時間をおいて、声を掛けたりスタッフを変えて誘うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況やその時の状況を見て、昼寝などの声掛けや早めの入床を促し対応している。また、十分な睡眠が摂れていない方などには、往診医に相談し薬の調節をさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理台帳により個々の薬の変更などを確認しやすくし、個人のファイルに薬の説明書を綴じて職員全員がいつでも確認出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭でされていた習慣を引きつづき出来る様に(毎日、入浴やお手伝い、茶碗拭きや洗濯物等たたむ、干すなど)支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1~2回のご家族様との外出(食事等)や暖かいときは散歩等に積極的に出かけられるように、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人では、お金の管理は難しくなっているため、施設にて管理しているが、訪問移動販売や近所のスーパーにて買い物をしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えはほとんどない。まれに家族に連絡したいときは、家族にいつでも連絡してよいか了解を得て、対応出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。また、四季を感じられる様に共用フロアは季節に応じ、飾り付けを変えて対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場、くつろぎの場とを分けて個人で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の好きな(タレント、家族、物)を飾ってみたり、テレビの好きな方は居室でゆっくり見られるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の理解度が落ちている方には、「トイレ」「〇〇の部屋」「洗面所」「お風呂」などと解りやすく大きく表記したり目印をつけたりしている。		